



地域に見守られている「斜め」の関係性を大切に

校長 間嶋 哲

「感謝の気持ち」は、決して押し付けられるものではありません。しかし誰かが「感謝の気持ち」を芽生えさせるような働き掛けをする必要はあります。道徳教育の一環として、大事なことです。

今月の全校朝会では、毎朝、通学路に立ってくださり、交通事故や不審者から子ども達を見守ってくださっているセーフティスタッフの皆さんとの面識会を行いました。20名ほどの皆さんが、お名前と担当地域を話してくださいました。



何気なく朝のあいさつを交わしながらも、例えば暗い表情であれば「どうしたのかな。何か悩み事でもあるのかな」と、声をかけていただくケースもあります。学校にわざわざ来校し、そのような情報を教えていただくこともあります。泣いている、あるいはケガをしている子どもと一緒にきてくださる方もいます。本当にありがたいことです。

私自身も「親業」をやっている者として、親に言えないことでも、地域の方になら気軽に言えるというケースがあることを知っています。少し昔の社会なら、それが当たり前でした。保護者や教員は、子どもにとっての「縦の関係性」であり、同世代の友達には「横の関係性」であると言われています。それら2つに属さない「斜めの関係性」を持つことができる人間関係を、その子が、どの程度持っているのが大切なのです。その意味でも、自分で歩いて登校したり下校したりすることが、成長する上で大切だと思いませんか。

面識会の後、情報交換会を行いました。登下校を含む、普段の子ども達の様子について、直接お聞きできる貴重な場となりました。次のような、気になる話題も出ました。

- ①道路と歩道を仕切っている縁石の上を、ふらふらと歩いている子どもがいる。
- ②自転車の乗り方として、交差点での渡り方や、横断歩道前での止まり方の指導が必要。
- ③虫かごを両手で持って登校するだけでなく、登校の最中、虫捕りに興じる子どもがいる。

どれも交通安全上、とても危ない行為です。教職員でも共有し、各学級で指導をしたところですが、どうぞ、ご家庭におかれても、自転車は歩行者とは違うきまりがあること、あるいは①や③の行為が、なぜ危ないのかを話し合っただけだと幸いです。

大運動会

～新たな一歩 仲間とともに楽しみ

W優勝つかみ取れ!～



楽しかった玉入れ

2年

うんどう会で、チェッコリ玉入れをしました。2かいしょうぶをしたら、1かい目は白ぐんが25こで、赤ぐんは15こでした。1かい目は白がかったけど、2かい目はまけました。くやしかったけど、チェッコリのダンスもぜんぶたのしかったです。

らい年のきょうぎもがんばります。



運動会のおうえんだん

4年

ぼくは、運動会のおうえんだんに立こうほしました。おうえんだんでは、旗をふるたんとうになりました。初めて旗をふったときは、きんちょうして心配だったけど、れんしゅうしているうちに、「本番は成功するかも。」と自信がついてきました。

おうえんだんとしてみんなの前でおうえんできて楽しかったので、5年生もおうえんだんになりたいです。



運動会をふりかえって

6年

私は、今まで勝つことしか考えていませんでしたが、最後の運動会で気付いたことがあります。それは、「がんばれ」「お疲れ様」などの言葉には、相手にとって「がんばってよかった」と心から思える言葉なのだということです。何気ない一言は誰かにとって大切な言葉になるのです。また、高学年が協力し、バトンをつないでいくリレーは、それぞれの全力があって一人ひとりの想いがつながるような感じがして、心に残る競技となりました。

運動会は、とても楽しくて、一人ひとりを成長させる行事だと思います。先生方やPTAの方々、全校みんなが一つのことに向けて取り組んでいくことで、運動会が成り立つことを実感しました。小学校生活の中で、6回しかない運動会…。今年度が一番楽しかったです。応援団にもチャレンジできて、全力でメンバーを支えることができたのも思い出です。悔いなく終わることができました。